

## 10月の技術対策（水稻）

平成17年10月1日  
JAきたそらち・JA北いぶき  
空知北部地区農業改良普及センター  
雨竜西部地区農業改良普及センター

本年の米作りをふり返ると、育苗期間の低温・日照不足と7月上旬の低温以外は、ほぼ高温に経過しました。この結果、高収量・低タンパクを達成出来た生産者の方も多かったのではないのでしょうか？さて、収穫作業も終わったばかりですが、来年の米作りは既に始まっています。

### 1 適切な稲わら処理・透排水性の改善

#### (1) 適切な稲ワラ処理

窒素肥沃度の高い水田や透排水性の悪い水田におけるワラの鍬込みは、移植後の稲わらの分解に伴う、土壌の還元化や生育阻害物質を生成させ、初期生育を不良にする原因となります。さらに、生育後半において窒素が無機化されタンパク含有率を高める原因となります。稲わらは極力搬出しましょう。ただし、地力が低く、透排水性の良い水田では秋鋤込が可能です。

**稲わらの焼却処理は、大気汚染、健康障害や交通障害など生活環境の保全に著しい支障が生じます。絶対に稲わらの焼却は行わないでください。**

#### (2) 表面水の排除

「溝切り」(図1)は、田面の停滞水や翌春の融雪水を排除するための有効な手段です。施工に当たっては、必ず排水口につなぎましょう。

#### (3) 透排水性の改善

透排水性改善のため、「心土破碎」(図2)や「モミ殻暗渠」を施工しましょう。特に心土破碎は、毎年実施することが重要です。降雨により地耐力のなくなった水田の場合は、積雪上から施工する「雪上心土破碎」が効果的です。

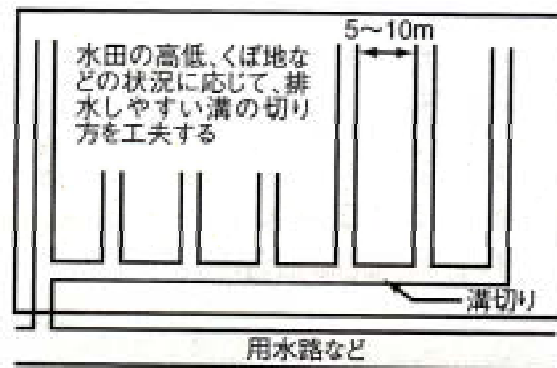


図1 溝切りの施工例

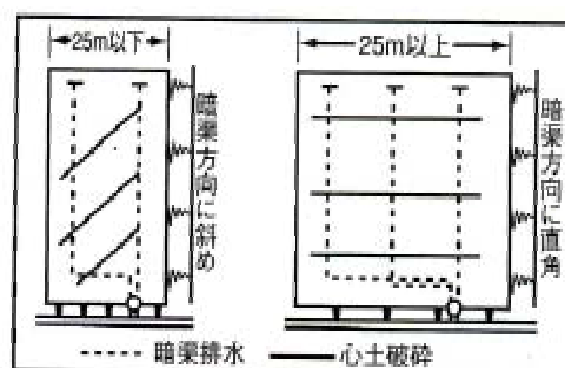


図2 心土破碎の施工例

### 2 来年の米作りに向けて

本年、「収量が低かった」あるいは「タンパクが高かった」という生産者の方は、どこに原因があったのか？下表の「米作りチェック表」で問題点を認識し、来年の米作りに向けて検討してみましょう！

#### 「米作りチェック表」

| 作業        | チェック項目                                   | 基準及び目標                                                           |
|-----------|------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 前年のほ場管理   | <input type="checkbox"/> 稲わら搬出(排水不良田)    | 後期窒素の発現→高タンパク化                                                   |
|           | <input type="checkbox"/> 稲わら秋鋤き込み(排水良好田) | 地力窒素の低いほ場では有効的                                                   |
|           | <input type="checkbox"/> 溝切り             | 表面水排除のために行う                                                      |
|           | <input type="checkbox"/> 心土破碎            | 融雪水の早期地下浸透を図る                                                    |
| は育苗管理     | <input type="checkbox"/> 育苗床のpHの確認及び酸度矯正 | 前年に土壌診断を行い、苗床の養生を行う                                              |
|           | <input type="checkbox"/> は種量             | 1株当たり、中苗は3～5本、成苗は2～4本が適正                                         |
|           | <input type="checkbox"/> 適正な水管理温度管理      | 葉令に応じ適正温度管理(2.5葉以降は高温に注意)                                        |
|           | <input type="checkbox"/> 育苗日数            | 中苗で30～35日、成苗:35～40日を目標                                           |
| 施肥        | <input type="checkbox"/> 培養窒素に基づく施肥設計    | 地力を考慮した施肥→低タンパク米                                                 |
|           | <input type="checkbox"/> 側条割合の適正化        | 土壌にあった、側条割合を考慮                                                   |
|           | <input type="checkbox"/> ケイ酸資材の施用        | 土壌中ケイ酸が16mg以下の場合、ケイ酸資材を投入                                        |
| 移植        | <input type="checkbox"/> 移植適期内での早期移植     | 移植後の5日間の平均気温 中苗12℃、成苗:11.5℃が移植早限                                 |
|           | <input type="checkbox"/> 栽植密度            | 中苗:83株/坪以上、成苗:73～83株/坪が適正                                        |
|           | <input type="checkbox"/> 植え付け深           | 1～2cmが適正                                                         |
|           | <input type="checkbox"/> 移植時の気象条件        | 植え傷みを防ぐ(低温・強風時は4～6cmの深水)                                         |
| 除草        | <input type="checkbox"/> 優先雑草に適した除草剤の使用  | 除草剤は前年の残草によって選択                                                  |
|           | <input type="checkbox"/> 適期散布            | 適正な使用時期を守る 雑草の発生を確認する                                            |
|           | <input type="checkbox"/> 水管理             | 散布時の水深は4cm以上、散布後4～5日間は止水管理                                       |
| 生育初期の水管理  | <input type="checkbox"/> 活着期の水管理         | 晴天時は2～3cmの浅水管理水温23～25℃を目標                                        |
|           | <input type="checkbox"/> 分げつ期の水管理        | 水深4～5cmで管理 入水は夜間から早朝に、日中止水                                       |
|           | <input type="checkbox"/> 過剰分げつに対する水管理    | 深水管理で、分げつの抑制                                                     |
|           | <input type="checkbox"/> ワキの発生と中干し・溝切り   | ワキの程度に応じて、根傷み防止のために行う                                            |
| 幼形期以降の水管理 | <input type="checkbox"/> 幼形期の確認          | 水管理のために必ず確認                                                      |
|           | <input type="checkbox"/> 前歴期間の深水管理       | 花粉の増加のための水管理 10cmの深水                                             |
|           | <input type="checkbox"/> 冷害危険期の深水管理      | 花粉の退化防止・充実のための水管理 20cmの深水                                        |
|           | <input type="checkbox"/> 危険期後の中干し        | 根に酸素を供給し根の活性化を図る                                                 |
| 病虫害防除     | <input type="checkbox"/> カメムシの効率的な防除     | すくい取り頭数に応じた防除                                                    |
|           | <input type="checkbox"/> いもち病の予察         | BLASTAMを参考にする                                                    |
| 出穂期以降の水管理 | <input type="checkbox"/> 開花時の水管理         | 出穂始後は間断かんがいを行い、でんぷんの転流を促進                                        |
|           | <input type="checkbox"/> 落水時期(排水不良田)     | 出穂期に落水。以降大きなひび割れ(1cm程度)が入る前に走り水                                  |
|           | <input type="checkbox"/> 落水時期(排水良好田)     | 出穂期25日目までは間断かんがい                                                 |
|           | <input type="checkbox"/> 落水後のほ場状態        | 表面に小亀裂(1cm以下)ができ、わずかに足跡が付く程度の水分維持                                |
| 収穫乾燥      | <input type="checkbox"/> 玄米で収穫適期を判定      | 判定は、一等米基準限度による<br>整粒70%(または80%)以上、着色・紅変米0.1%以下<br>被害粒(茶米など)15%以下 |
|           | <input type="checkbox"/> 二段乾燥            | 初水分17～18%で一時貯留し、初水分の均一化を図る                                       |

